**坐禅偈**：**真の「坐禅（＝宴坐）」とは？**聖徳太子著『維摩経義疏』に基づき佐々木奘堂編

**１．「にして、せず」、**ぞをずるらん。

**「のをえて、にれ、てをめんとす」、**ぞれん。

**２．「にし**、**るべきく**、**けるべきし」**、をづけてとす。

**「、して、をてにる」、**あにくとづけん。

**３．「にのをじてにをす」、**ちづけてとす。

**「らをすのみ、をするをわしとす」、**

ぞくなることをん。

**４．「、をじ、にいをす」、**ちのとづく。

**「はてるべし、はるべし」、**ぞとすことをん。

**５．「にせず、にせず、す」、**ちくとづく。

**「はてるべし、はすべし」、**ぞくなることをん。

**６．「にして、てるべきし」、**ちのとづく。

**「はるべし、はすべし」、**ぞくとづけん。

**７．「にして、ずべきし」、**ちらをす。

**「にじてのち、ににる」、**ぞづけてとさん。

◎『法華経義疏』から

１．「にをみて**、**かなるにりて**、**そのをしめよ。」（『法華経』）

２．にすることをむのにしみづくことなかれ。

３．「してとす」は「をむの」をかす。

４．のるにるがに、をて、のにきて、

にをむなり。

５．にりぬ、「」は、なおに「の」にるべきことを。

# ６．のをうる、をにし、のをうる、をにむる。（吉蔵［549-623］撰『維摩経義疏』にある「坐禅」の説明。）

# ７．く、く、し（無彼無此亦無中間）。（『維摩経』）